

【羽村市】校務DX計画

文部科学省では、令和5年3月に「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を取りまとめた。提言では、次世代の校務DXの方向性を示し、数年かけて校務系・学習系ネットワークの統合と次世代の校務支援システムの整備を行うとともに、クラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化が可能であるとしている。

ここでは、羽村市教育委員会及び各学校が、校務DXを推進する際の課題や、課題に対する解決策をまとめた。

1. 校務DX推進に当たっての課題

これまで羽村市では、各教職員に配備している校務用端末はインターネットに接続できず、各種クラウドツールを活用することができなかった。また、管理職には、校務で使用する校務用端末、教育委員会との連絡に使用する管理職用端末の複数端末を配備しており、用途に応じてデータの移動が必要となるなど、大きな負担があった。

校務用端末は、LANケーブルで接続しており、職員室、校長室、事務室のみでの使用が可能であり、校務用端末の利用場所が制限される。そのため、校務支援システムへの出欠情報や学習記録等の入力に際して、紙に記載したものをシステムに転記する作業が負担となっている。

2. 解決策

● クラウドツールの利用

令和6年度に導入したMicrosoft 365機能を積極的に活用する。

教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会のやり取りは、法令や規則等で定められているものを除き原則押印不要とし、またFAXでのやり取りも電子化することで、事務作業への負担軽減、コミュニケーションの迅速化、データ共有の効率化等を図る。

● 学校事務(校内会議、スケジュール管理、会議室等予約)におけるICT活用の推進

校内で実施する会議等は、端末を用いて実施し、ペーパーレス化を進めることに加え、クラウドツールを活用した会議等の効率化や活性化を図る。

また、クラウドツールを活用し、教職員間のスケジュールの管理、会議室等の校内施設の利用予約を行う。

● 保護者用連絡ツールのデジタル化の推進

令和6年度に導入したクラウド型の保護者用連絡ツール(欠席連絡、お便り配信等)の利用を促進する。

● 校務支援システム及び校務系システムのクラウド化

オンプレミス型で導入している校務支援システム及び校務システム(校務ファイルの管理)について、次期更新にあわせ、クラウド化を進める。また、次期校務支援システムの検討に当たっては、東京都が実施する共同調達の動向を注視していく。

● 校務用端末のワイヤレス化

校務支援システム及び校務系システムのクラウド化に合わせ、校務用端末のワイヤレス化を検討する。学校内フリーで使用できることで、帳簿等への記入は行わず、直接校務支援システムに入力することが可能となる。なお、学校内のワイヤレス化においては、GIGAスクール構想で構築しているネットワークの活用についても検討していく。学校外を含めたロケーションフリー化については、国や他自治体の動向に注視していく。